

大阪歯科大学 兵庫県校友会報

No. 24

発行所

神戸市生田区山本通

5丁目41

電話8337-9

編集発行人

村井俊郎

母校を愛しましょう

兵庫県校友会長 奥野半蔵

校友会員各位のご推選により兵衛会長六選の栄を得ましたことを感謝します。これで新潟県会長の九選、福岡県会長の八選、岐阜県会長の六選につづいて多選会長となりました。

今日からは概念主義でなく、日本のゼネレーションをつかんで新しくやっていきたい。「無事これ貴人」と無事を尊ぶ心は進歩発展がない。バイタリティーを十分発揮して、性能として能力主義で、性格として義理人情主義で（これは選挙に禁物）会員の欲望と動向を追及していきたい。

さて母校は今年は一番志願者の多い年になりそう、入学者には苦しい未^{ヒツジ}の年である。昨年は第二口腔外科と放射線科、今年是小児歯科、歯周病科、第三補綴科が増



設されることになっている。

年を経て益々充実する母校は、卒業生に取って頼もしい限りで、将来のビジョン達成への道を歩む。

われわれの母校という感覚が起ると、客観的に愛情の発露があり主観的には感情となる。

しかもわれわれに職業を教えた母校、その職業を天職とも、聖職ともいう。

歯科医業の中に人間の目的を発見し、深まり行く意識的な職業への愛着の極限

概念というか普遍的通念というのが天職ということになる。

なおわれわれは国家への使命感を忘れてはいけない。歯科医療を通じて、国家にそっていく国家が要求する一定の行動様式、一定の考え方を現実化してゆかねばならぬ。国民皆保険という概念には身を以てして協力せねば、国家への義務は成り立たない。いたづらに高きについて保険を見下すなどの行為はエリートとして取るべきでない。時代の流れを、しっかりと見て取りましょう。この流れをガツチリつかんで合理化し、近代化し、文化してゆくところに執行部のリスボンシビリティ（責任）がある。

人間は美点も弱点も不成功も同居しているが、校友は常にことある時は一致協力ねばならないのは論をまたない。

自分が執行部をはなれると一致したり協力したりする行為を非難することは、つつしむべきだ。虚心に宮本武蔵「我事において後悔せず」を思い出そう。自信満々、自分のやったことを後悔したり、反省したりしないという意ではない。自

私のすがたを心中深く、さぐろうとすることである、私はこれは慢心の表現であり、禪における悟入の境だと見ている、仏教の「さとり」であり、儒教の「仁」の還境です。校友一致団結は他校との派閥解消であり、横での連繋の密をあらわすこととなる。

ただ天理を離れざる行為こそ望ましい。

私は一九六七年を期してさらにチャンピオンシップを作っていきたいと念願する。

私のあとをいつでもつげるチャンピオンシップが、数多く出ることを望んでやまない。またわが兵庫県大歯にはそれにふさわしい人々がたくさんいることは心強い。左から右まで振幅の大きな人事をもって複数でいきたい。

怒りを忘れた民族は滅びると昔からいわれている。常に不義と不正を怒らねばならぬ。

誠実を尊ぼう。いたづらにデマにまよわされたり「ウソ」に乗らないように、会員は理屈でなく、実感で「すなお」にありのままの現実で概念作りをしてほしい。理念を持って理念なきところに目標なし。これからの多くの仕事を秩序をつけて申さしにしよう。

対象の世界を視ながら経験で理性で、みんなに欲求不満のないように文化形成をやってゆきたい、母校を愛しましょうをモットーに漠然と所感をつづりましたお許しを。

昭和四十二年度 大歯兵庫県校友会

第十四回 交歓旅行会

恒例の交歓旅行会は但馬、丹波両分会の当番でつぎのとおり行われます。

ご家族ともどもふるってご参加下さい。

日時 七月七・八日

場所 皆生温泉（鳥取県）

今回の県歯会長 選挙に教えられる

兵歯会長選挙に際して、私たち校友会が全力を揮って推薦した奥野会長が絶対の強みを見せて当選したのは、たとえ対抗馬として立候補した大浦氏が世論の不評に抗しきれずに、志半ばにして坐折したことがあったとはいえ、まづは喜ばしいことである。

そして今度の選挙を通じて、私たちが大変教えられることが多くあったのも事実である。

まづ今度の選挙が、組織代表と個人の欲望との闘いであったことである。しかもその個人の欲望が会員の希望に連なるものとはおよそ縁の遠い、一種のレジスタンスに留まったことも、会員の心に反映を見なかつた原因である。

そしてそれは私たちに、小さな組織にさえ受け入れられない人物は、当然大きな組織に認定されることが不可能であるのを教えた。

まして私たちの校友会組織が、同じ職業を志し、その上同じ釜の飯を食ったという兄弟愛を基幹とした者の集りである。

ればこそ、会員の総意こそ最も尊重すべきなのである。

この総意を無視し、綱紀を乱すことが如何に無駄な努力であり、しかも今後とも絶対に許されるべき行為でないことを会員一人一人の意志が無言の裡に大きな圧力となつて一人の異端者を葬り去つたのである。

また私たち一、〇〇〇名の校友が、兵歯一、五〇〇名会員の絶対多数の人員を占めるということが、兵歯に起きる総ての事柄に対して最大の責任を負わされているということも銘記しなければならぬ重大事である。したがつて大歯の校友会を攪乱することは、すなわち兵歯を攪乱することであり、もちろん兵歯会員としても許される筈がないのである。

私たち校友会も、年輪を重ね中興の榮をなし得たところで大きな問題に直面した訳でもある。

先日の選挙直後の会合の際に、若き世代の校友達から、今後の問題としての終末処置に関する活発な多くの発言がなされたのは、校友会の前進と発展のため大変嬉しいことである。ともあれ複雑な今日社会の中で、何を主張することも希望するにも、組織と団結こそが唯一の武器であることが痛いほど感ぜしめられたのである。そしてその団結のシンボルこそが校友会でありたいものである。

常任委員会

昭和四十一年十月六日午後七時半から兵歯会館で常任理事会が開かれ、その席上次期兵歯会長に奥野校友会長をすいせんすることを、満場一致で決議した。

副会長、分会長会議

十一月十二日午後七時から三輪で、県校友会の副会長、分会長会議を開き、当面の問題について協議された。

当日の出席者：つぎのとおり
副会長 内田松蔵、名田昌弘

馬場政治郎

分会長 松本清、高木定夫、沢活哉
室 進、和久憲一、河原道夫
一瀬耕介(神戸分会は名田)

諮問委員決まる

県校友会では、暫く空席となつていた諮問委員を選任することとなり、十二月二十二日付でつぎの方々を委嘱された。

伊藤英一、藤本耀三、阿部勉
伊東栄、後藤憲次郎、小野巖
山下治夫、吉岡貞三

全体理事会開く

新たに委嘱された諮問委員八名の同意を得て、県校友会の全体理事会が十二月二十九日午後七時から兵歯会館で開かれ、奥野半蔵選挙対策委員会結成の件を協議、万場一致で可決、委員長に名田副会長が選任された。

八大学懇親会を開催

一月五日午後五時から治作において、日本歯科、医科歯科、東京歯科、日大歯科、大歯、阪大、九州、京城の八大学校友会の懇親会が開かれた。

人工歯もジーシーにおまかせ下さい



〈新発売〉

精魂こめて作った

新しい陶歯

ユニルクス 有孔陶歯
… 螢光性・真空焼成 …

ニエビルクス 金ピン付陶歯
… 螢光性・真空焼成 …

ジーシーの人工歯

- ビトロ(硝子歯) … 螢光性・金ピン付・真空焼成 …
- テクニ陶歯(白歯) … 螢光性・真空焼成陶歯 …
- ウエアレス・レジン歯 … 螢光性・抗磨耗 …
- ジーシーレジン歯 … 螢光性・耐磨耗 …
- エパ・レジン白歯 … 螢光性・超硬質 …

而至化学工業株式会社

藍 綬 褒 章

盛大な授章祝賀会

奥野会長
白数学長
ともどもに歓び



会長奥野半蔵氏はさる十月一日付をもって藍綬褒章を授与された。この授章はすでに各紙で報道されたように昭和二十二年から現在にいたるまでの二十年間にわたる、兵歯会長五期十年をはじめとして、三十有余の公職歴の業績に対してなされたものであり、実に兵庫歯科医師会六十七年の歴史にはじめて印した慶事である。

授章式は十月十二日厚生省の講堂において行われたが、奇しくも十一月に、同期生である白数学長も藍綬褒章授章の栄に浴された。

兵庫県校友会ではこれを祝って早速両氏を招き、十一月二十三日のよき日、ニューポルトホテルで授章記念の祝賀会を開催し、この慶事を盛大に祝うとともに両氏に記念品を贈呈した。

竹中参議院議員をはじめ多数の来賓を招いて開かれた祝賀会は十

二時三十分、磯島理事の司会、飯田副会長の開会のことばではじまり、内田副会長から

「これを機会に校友の団結を一層強固にしてその実をあげたい。」

とあいさつがあり、名田副会長が両氏の略歴を詳細に披露したあと、奥野会長、白数学長に万堂の拍手のうちに記念品が贈呈された。

つづいて多数の来賓の紹介と祝辞がのべられたあと、祝電が披露され、両氏から大要つぎのように謝辞がのべられて祝盃にうつり、校歌斉唱、万才を三唱して馬場副会長の閉会のことばで、この意義のある祝賀会を終えたのである。

奥野会長あいさつ(要旨)

「このたびの授章は永年の会員の努力の結晶に対してなされたものであり、これをきっかけに、歯科界の現状を世間に認識して貰うとともに、われわれも、より一層大きな観点に立って、一丸となって今後の発展に努力してゆきたい。」

白数学長あいさつ(要旨)

「一将功成つて万卒枯る」は私のものとも嫌いな言葉である。今回の授章は学校教職員全部の功勞に対してなされたものであり、私は単にその代表の一人であるに過ぎないと考えている。この授章を先輩、友人のみなさんが、一番嬉しいものとして喜んでくれると同時に、今後歯科界がいっそう発展してゆくひとつの転機となるよう願っている。」

御一報次第阪神明間参上
致します
製作期間 4日

ホワイト鑄造床

コバルト
クロム合金

ホワイト圧印床

188鋼

及び特殊技工



三原齒研工業株式会社

神戸市灘区八幡町2丁目42

TEL (85) 2177

昭和41年度

日本を変えるエネルギーとなれ

新卒業生歓迎会

恒例の新卒業生歓迎会は秋の晴れのよき日、十一月二十三日(祭)を選んで午後二時からニュー・ポートホテルにおいて盛大に開かれた。

希望と期待に包まれて、今春巣立った若人は二十八名、これを祝福して校友約三百名がつどい、にぎにぎしく激励の宴を開いた。

会は津田理事の司会ではじめられ、名田副会長の「手を握りあって歯科界のためにつくそう」との開会のあいさつにつづいて奥野会長から

「日本を変えるエネルギーとなれ! 経験とカンを十分につんだ名医となつて、日本を動かす原動力となつて欲しい。これがそのまま、従容として仁の道をゆく」の大歯精神につながるものである。」と激励した。

ひきつづいて緒方大歯校友会会長、白数学長、竹中参議院議員をはじめ、多数の来賓からそれぞれお祝いとお励ましのことを受け、一人づつ壇上につづいて奥野会長から記念品の贈呈を受けた。



当せんのよろこび 岡本氏

これに対して新卒業生を代表して石崎順啓君から謝辞がのべられ、このあと磯島理事から、兵庫県校友会と校友会本部について、その紹介をかねて概況報告があり、四十一年度の学位受領者、小寺高志、森本二郎両氏に対しては、記念品を贈呈してその巧績を讃えた。

以上で第一部を終了、ベテラン司会者河原理事の進行で、演芸、ラッキーカードの抽籤などを交えての祝宴に移り、楽しい一刻を過ぎて有意義な一日の幕を閉じた。

ラッキーカード当選者

- 一等 岡本 源一 (尼崎)
- 二等 前田 利金 (葦合)
- 藤田 恭吾 (生田)
- 三等 井上貴之介 (播磨)
- 中塚 博美 (葦合)
- 大島 (歯界報知)

昭和四十一年度 第十四回 大阪歯科大学新卒業生

- 青山 康介 宝塚市伊子志字逆瀬八〇七
- 朝比奈泰雄 尼崎市東富松字穴口一二七一 宝塚(6)一一三五
- 石崎 順啓 神戸市東灘区魚崎町横屋一五四 大阪(4)八三三
- 井上 堯夫 伊丹市昆陽北辻一三 神戸(4)二四〇七
- 岩井 師 姫路市大塩町宮前
- 小国 雅子 尼崎市西字南川端五八九一二
- 岡 宏美 南川端庄一六号室
- 岡田 誠一 神戸市生田区東川崎町五一八 神戸(7)〇〇〇八
- 阪本 義典 神戸市兵庫区下沢通二一三三 神戸(5)六三六七
- 島原 健夫 神戸市長田区明泉寺町二一七二 神戸(6)八二七〇
- 中村靖子(舟田) 尼崎市時友字猪名の北三六四 神戸(7)二五八二
- 辻井 盈子 三田市高次一二一五 神戸(7)二一六
- 中井 昭 西宮市甲子園口三二二一 神戸(7)二一六
- 中塚 洋 神戸市生田区東川崎町七二二三 神戸(6)六九六四
- 成田 光一 神戸市長田区五位の池町三一四三
- 西村 栄造 五位の池マクション内 大阪(4)一一八六
- 橋本 佳子 甲南マクション 神戸市兵庫区東山町二二二七 神戸(5)三九六〇
- 浜田 充彦 西宮市六軒町三五一一 兵庫県指保郡太子町鶴九三 太子 三三三二
- 福本 敬 神戸市東灘区住吉町唐松二九 神戸(5)四七〇二
- 藤田 哲三 明石市二見町原九八二 二見(2)一七九四
- 藤田 徳雄 尼崎市西字南川端五八九一二 南川端庄一六号室
- 小国栄一(藤本) 神戸市灘区宮山町二一四四 神戸(5)四一三六
- 本庄 紘 神戸市灘区熊内橋通六一六 神戸(2)五六五〇
- 本多 忠敬 神戸市葦合区熊内橋通六一六 西宮(4)〇八〇八
- 丸橋 秀多 西宮市甲子園口六一四三 西宮(4)〇八〇八
- 村上 泰人 兵庫県加西郡北条町北条 北条 四二一一
- 和田 健 川西市小戸字行人塚二二二一 小倉方
- 原 元宏 神戸市垂水区玉津町居住一六〇
- 吉本 一馬 兵庫県飾磨郡夢前町前之庄 前之庄八